

子ども靴800足、8団体に

埼玉県社協の衣類バンク



左から柴崎知彦・埼玉県社協生活支援部長、印南課長、時野代表

埼玉県社会福祉法人
社会貢献活動推進協議
会（金子伸行会長）は
4月26、27両日、埼玉
県社会福祉協議会など

が入る彩の国すこやか
プラザ（さいたま市）

で、子ども靴の配布会
を実施した。東京靴流
通センターなどを運営
するチヨタが寄贈した
800足を、県内で食
料支援などを行う8団
体に配布した。

川越子ども応援パン
トリーは26日、150
足を受け取った。月末
の食品配布の際に靴も

提供する予定だとい
う。時野代表は
「本当に困っている家
庭にとって、子どもの
靴は後回しになる。き
つと喜ばれるはず」と
話した。

2020年3月から
活動を始めた同団体
は、市内にある最明寺
や本応寺と連携。月1
回のペースで境内で米
や肉、野菜などを配布
している。当初60世帯
ほどだった登録家庭は
1年で150世帯に上
ったという。

この活動は、川越市
で開かれた子どもの貧
困に関するシンポジウ
ムがきっかけ。開催後
に地元の有志で団体を
立ち上げた。時野代表
は「食料配布時に、カ
フェを併設するなど参
加者とのつながりを大
切に活動している。新
型コロナの影響で問い
合わせも増えている」

と語る。

こうした靴の配布会
は、県内の社会福祉法
人が社会貢献活動とし
て行う「衣類バンク」
の一環だ。未使用の子
ども服などを集めて困
窮世帯に配布する活動
で、18年から始まった。
県社協が事務局を担
い、衣服を届ける送料
を社会福祉法人による
会費で賄う。

これまで405世帯
に3000点以上を配
布。活動を続けるうち
に、今回のようにメー
カーから直接寄贈の申
し出も増えてきた。

とはいえ、「衣類の確
保が一番の課題」と印
南麻衣子・同社協生活
支援課長は指摘する。
今回からスマートフォン
を活用して簡単にお
礼の言葉が送れる仕組

みを導入した。寄贈の
成果を見える化し、企
業からの継続的な支援
につなげたい考えた。

印南課長は「衣類バ
ンクは無料で配布する
だけの事業ではない。
つながりを生むことで
本当に困ったときのS
OSを受け止め、福祉
制度につなげることが
できれば」と話してい
る。
(鮫島隆紘)